

Arcserve Unified Data Protection 7.0

Agent for Windows【Workstation Edition】

環境構築ガイド

はじめに	1
1. インストール	2
1.1 インストール	2
1.2 バージョンの確認	8
1.3 ライセンス キーの登録	9
1.4 修正ファイルの適用	10
2. バックアップ運用の開始	11
2.1 バックアップ設定	11
3. バックアップ スケジュールの設定例	18
3.1 バックアップ スケジュールの設定例	18
4. 製品情報と無償トレーニング情報	20
4.1 製品情報および FAQ はこちら	20
4.2 トレーニング情報	20

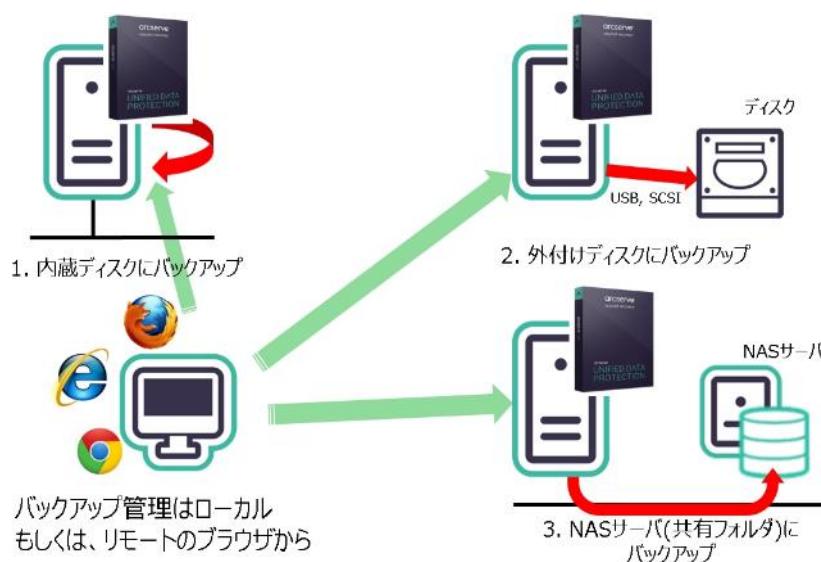
改定履歴

2020 年 5 月 Rev1.0 リリース



はじめに

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) Agent は、小中規模なコンピューティング環境のデータ保護ニーズに焦点を合わせた非常に「簡単」かつ「手頃」なディスクベースのシステム保護ソリューションです。導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に UDP Agent の環境構築を行っていただけるよう、ステップバイステップでインストールからベアメタル復旧までの手順を説明しています。



UDP Agent は保護対象のクライアント PC に直接インストールする製品です。バックアップ先のディスクには内蔵・外付けのディスクの他、NAS などリモートの共有フォルダを使用できます。共有フォルダを使用する構成では、保護対象のクライアント PC からみて Windows の共有フォルダとしてアクセスできるのであれば、デバイスの形式は問いません。内蔵ディスクが 1 本しかない構成や、クライアント PC 内にバックアップのための容量を確保できない構成では、NAS などのリモートの共有フォルダをバックアップ先に使用する運用が効果的です。管理 GUI は WEB 形式なので、ブラウザが使用できる環境ならば、保護したいマシンにアクセスするだけでバックアップ状況を確認することができます。台数が多い環境では「UDP 管理コンソール」からすべてのサーバを一元管理する運用もできます。バックアップ対象ノードに UDP Agent をリモートでインストールや、バックアップの設定（プラン）を一斉に配信することもできます。UDP 管理コンソール利用時は、バックアップ先として「復旧ポイントサーバ」も利用できます。これにより、バックアップデータの重複排除や、遠隔地への転送機能が提供されます。また、負荷のかかるマージやカタログ作成処理を UDP Agent に代わって復旧ポイントサーバ側で実行することができるため、クライアント PC やネットワークへの負荷を低減できます。

UDP 管理コンソールや復旧ポイントサーバの導入については、下記の環境構築ガイドをご参照ください。

<https://arcserve.com/jp/wp-content/uploads/2019/05/udp-70-console-install-guide.pdf>

1. インストール

説明手順は、ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールの必要なディスク要件は、環境により異なりますので下記の [ナレッジセンター] リンクより [ARCserve のサポート] 内にある動作要件をご確認ください。

参照先 : <https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/7.0/JPN/bookshelf.html>

1.1 インストール

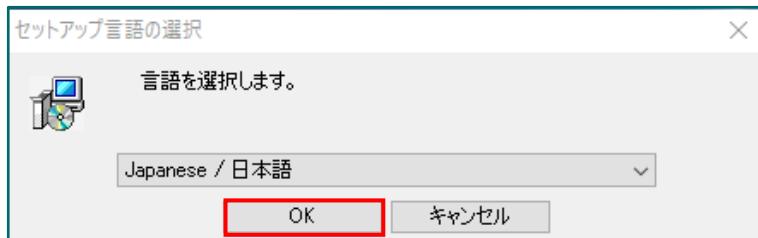
(1) [インストールの開始]

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) の Agent をインストールするコンピュータに、Administrator または、Administrators グループのユーザーでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」インストール メディアをセットし、[setup.exe] を実行します。セットアップ ウィザードが開始されます。

※ ダウンロード した Arcserve_Unified_Data_Protection_7.0_with_Update_X.exe からもインストール可能です。
("X"は Update の番号です。)

(2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] を確認し、[OK] をクリックします。



(3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し [次へ] をクリックします。



(4) [インストール タイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection – エージェント] が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



(5) [デスティネーション フォルダの選択]

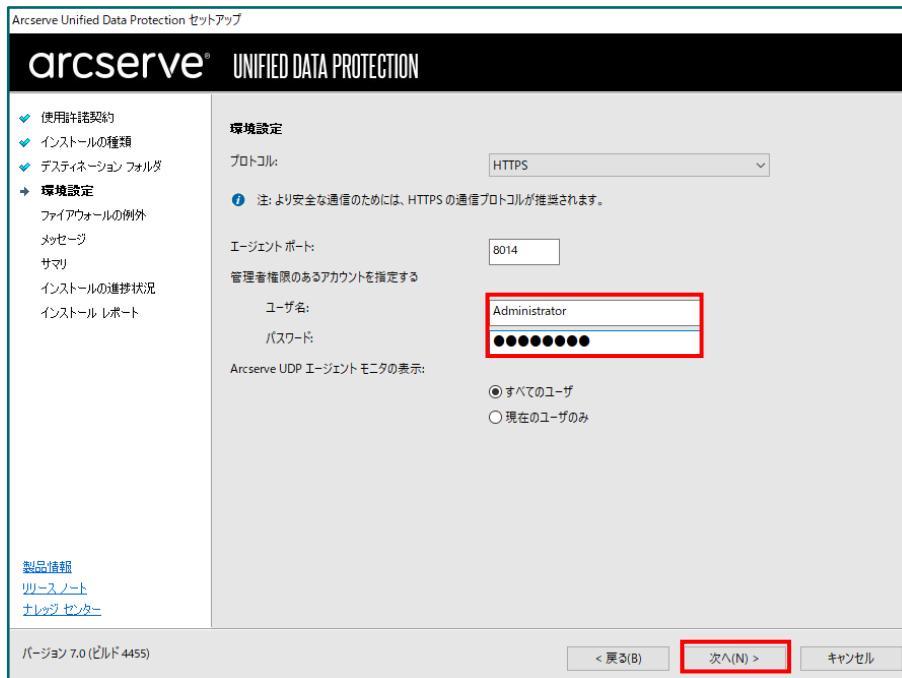
インストール先フォルダを確認し、[次へ] をクリックします。



(6) [環境設定]

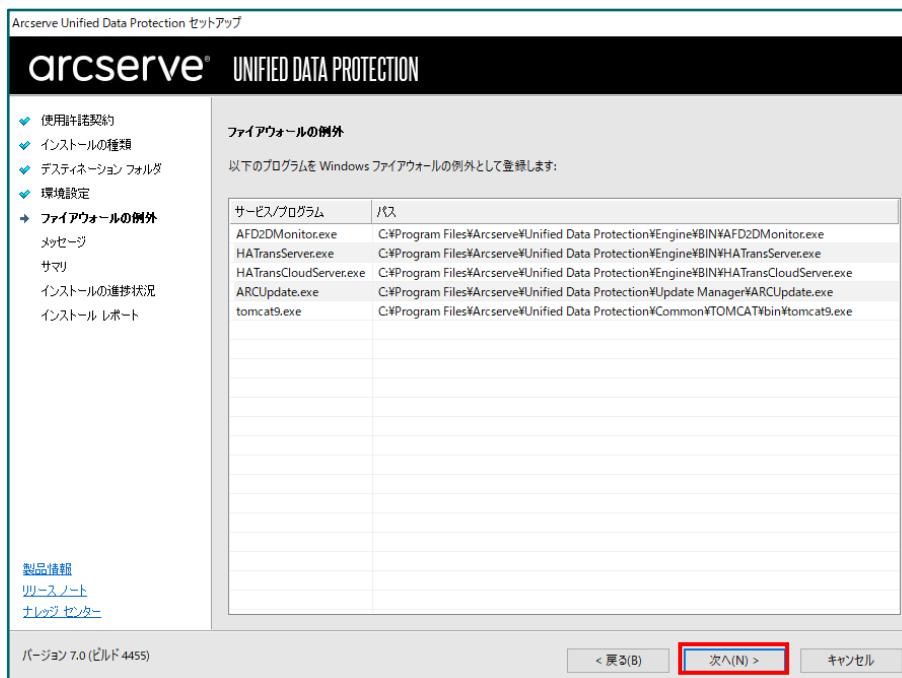
使用するプロトコルを「HTTPS」または「HTTP」から選択します。ここでは、HTTPS(デフォルト)を選択します。また、Windows ファイアウォールに登録するポート番号を確認します。

デフォルトで設定されるポート番号は「8014」です。ここで登録したポート番号を使用して、UDP Agent の操作をリモートのブラウザからも行うことができます。バックアップに使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名] を確認し、[パスワード] を入力後、[次へ] をクリックします。



(7) [ファイアウォールの例外]

Windows ファイアウォールの例外として登録します。内容を確認し、[次へ] をクリックします。



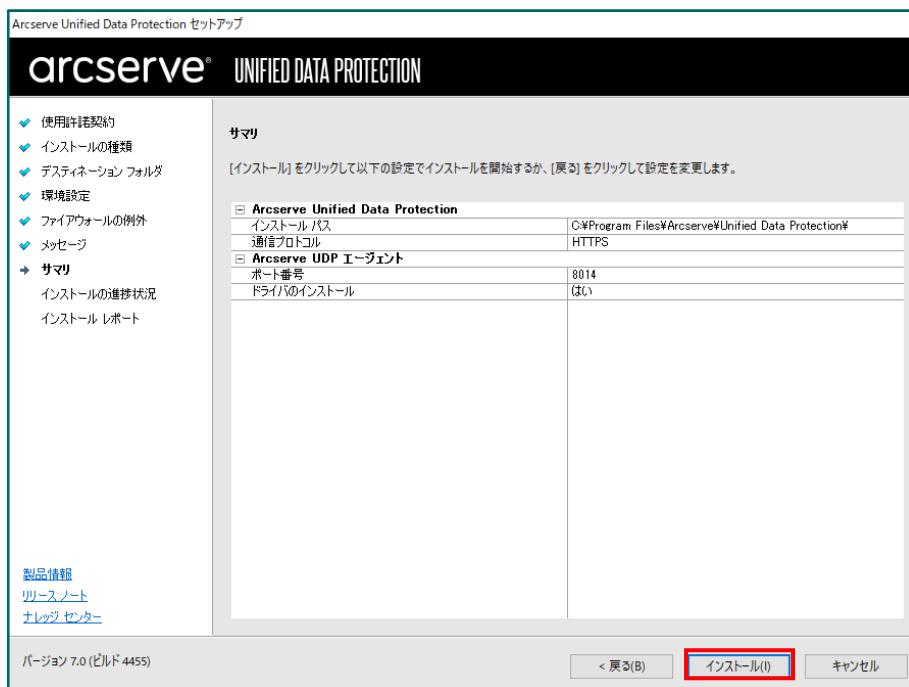
(8) [メッセージ]

セットアップの検証が完了し、インストールの準備が整いました。[次へ] をクリックして進めます。



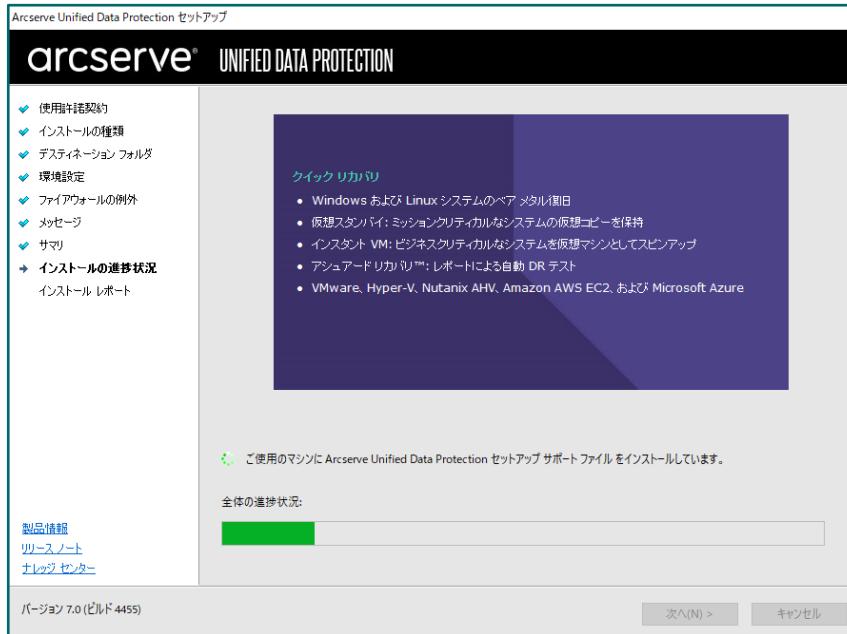
(9) [サマリ]

サマリ内の設定項目が正しければ [インストール] をクリックし、インストールを開始します。もし相違があれば [戻る] をクリックして前に戻り、再設定します。



(10) [インストールの進捗状況]

インストール全体の進捗状況を確認します。



(11) [インストールレポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、[完了] をクリックします。デフォルトは、インターネットが接続できる環境であれば、製品の更新を確認し最新の状態にすることができます。またチェックを外し、更新を確認せずに [完了] させることもできます。オフライン環境で更新を手動で適用する場合、[ここ](#)よりダウンロードしてください。

※ [更新を今すぐ確認する]で最新の UDP Update を適用する場合、OS 構成やアップデート状況により、再起動を求められる場合があります。再起動が必要な場合に表示されるメッセージは[こちら](#)をご確認ください。



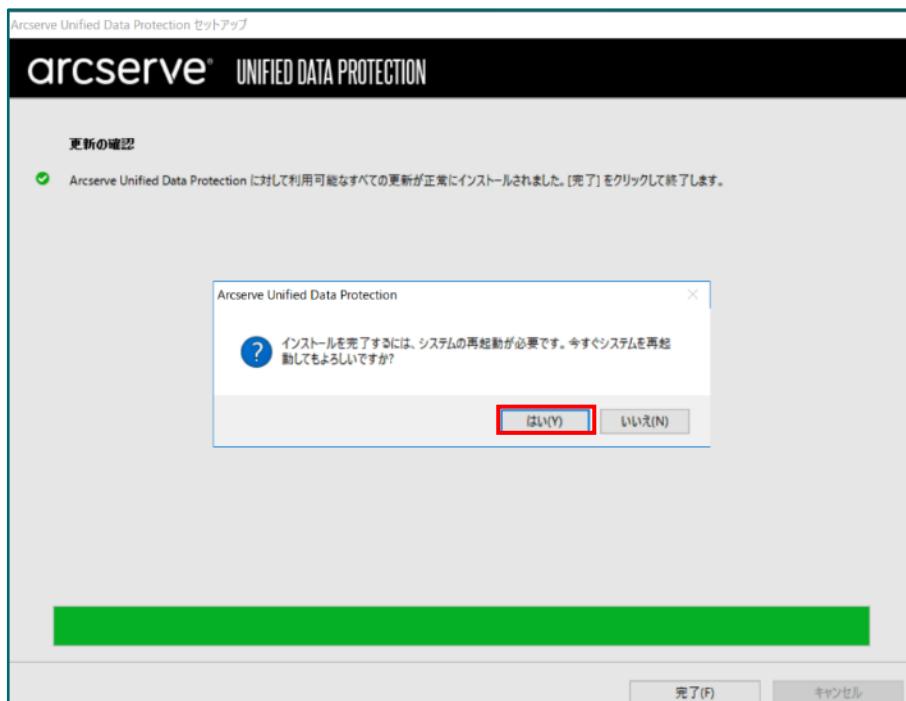
(12) [更新の確認]

[更新の確認] 画面からダウンロード経路を選択して、[更新] をクリックしてダウンロードが開始されます。

この画面は、（プロキシを経由しない）直接ダウンロードをした場合になります。



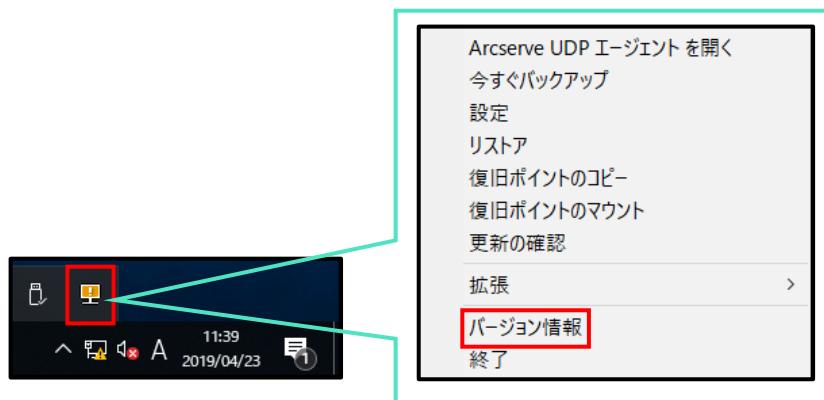
※ 以下のように再起動を求められた場合は、[はい] をクリックしシステムを再起動してください。



1.2 バージョンの確認

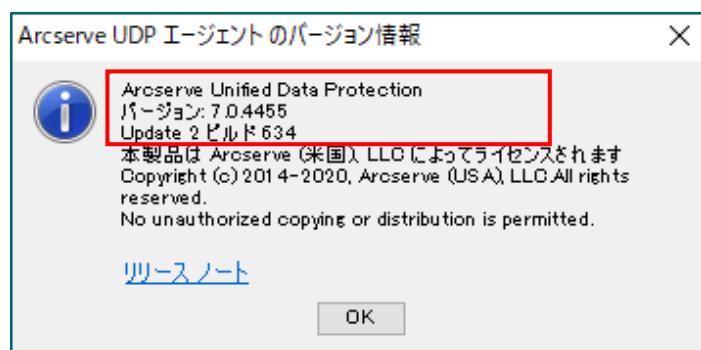
(1) [タスクトレイアイコン]

タスクトレイの UDP アイコンをクリックし、メニュー画面を表示しバージョン情報をクリックします。



(2) [バージョンの確認]

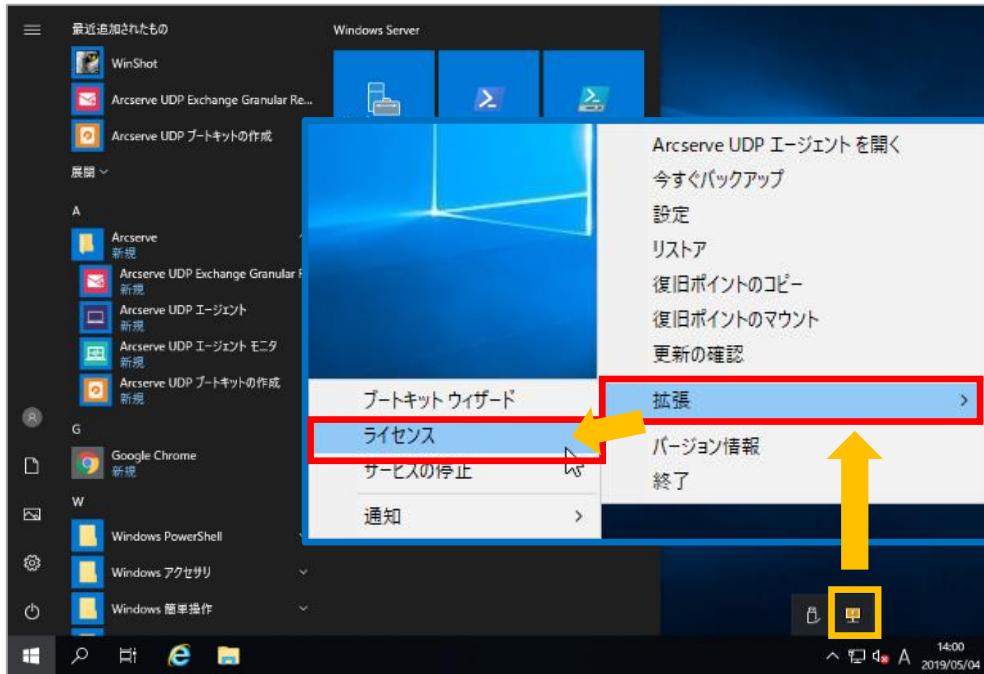
バージョン、Build 番号、および Update の確認ができます。



1.3 ライセンスキーの登録

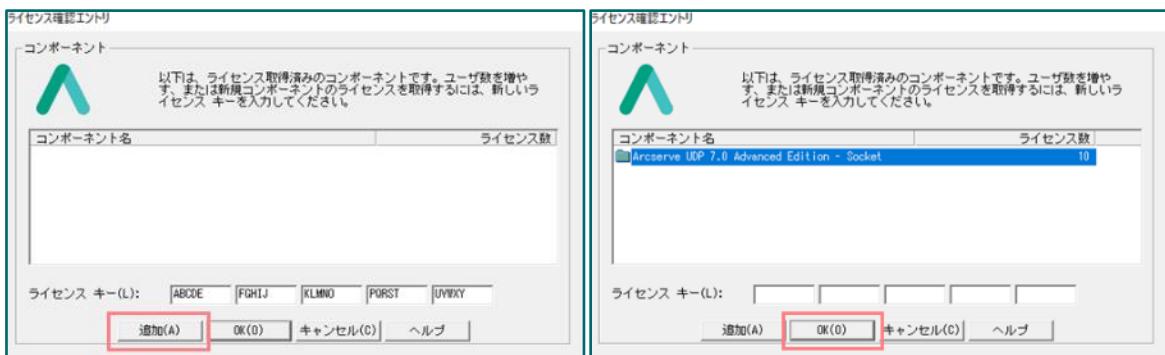
Windowsタスクトレイの[エージェントモニタ]アイコンをクリックし[拡張]-[ライセンス]と選択し、[ライセンス確認エントリ]よりライセンス登録を行います。

(ア) ライセンス画面の起動



(イ) キーの入力

[ライセンス確認エントリ]画面で、Arcserve UDP Windowsエージェントのキーを[ライセンスキー(L)]欄に入力し、[追加]をクリックします。キーが追加され、コンポーネント名にライセンスが追加されたことを確認し、[OK]で終了します。



1.4 修正ファイルの適用

修正ファイルの入手と適用には以下の二つの方法があります。

(1) UDP Agent の更新機能を使用

UDP Agent のインストールされているマシンで Web へのアクセスが可能な場合、修正ファイルを Arcserve サポートサイトからスケジュールでダウンロードするか、[ヘルプ] メニューから[更新の確認]より手動でダウンロードできます。

ダウンロードした修正ファイルは任意の時間に、手動で適用することができます。

(2) Arcserve サポートサイトを利用

Arcserve サポートサイトから修正ファイルを手動でダウンロードし、適用。修正ファイルは以下の URL からダウンロード可能です。

<https://support.arcserve.com/s/?language=ja>



2. バックアップ運用の開始

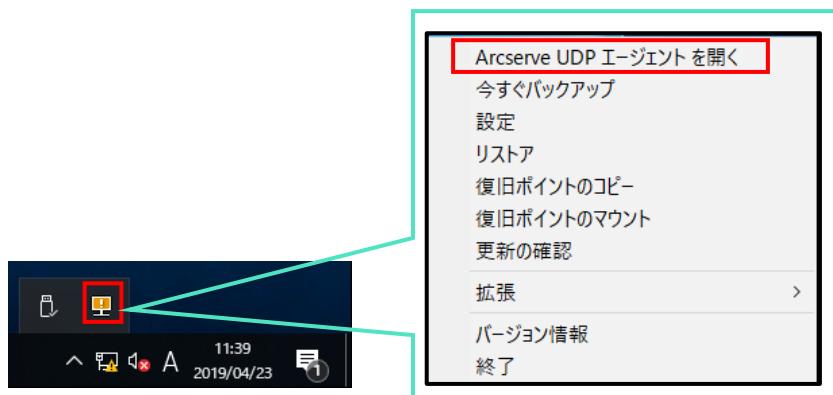
ここではデフォルト設定による最も簡単な運用開始手順を説明します。

以下の説明に従って、初めてバックアップ設定を保存した場合、毎日 22:00 にバックアップが自動的にスケジュールされます。運用要件に応じバックアップ設定を変更するには、本章「3.1 バックアップ スケジュールの設定例」を参照してください。

2.1 バックアップ設定

(1) [設定]

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、メニューから [Arcserve UDP を開く] をクリックします。



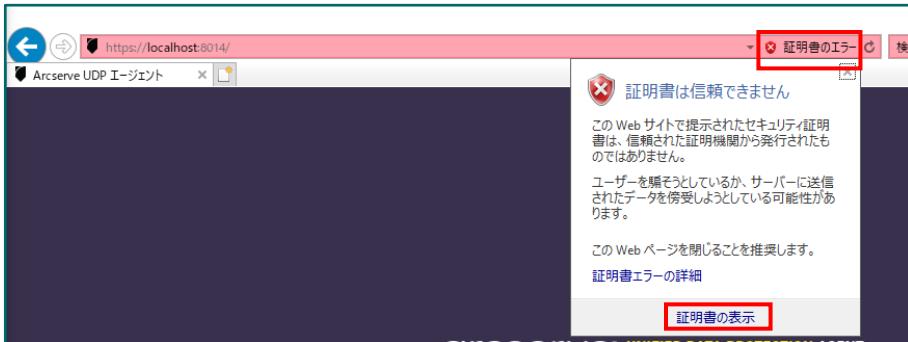
(2) [UDP エージェントの起動]

既定のブラウザが起動しますが、デフォルトの証明書が証明機関によって識別されないため、警告が表示されます。詳細情報 → Web ページに移動（非推奨）を選択し続行します。



(3) [証明書エラーの確認]

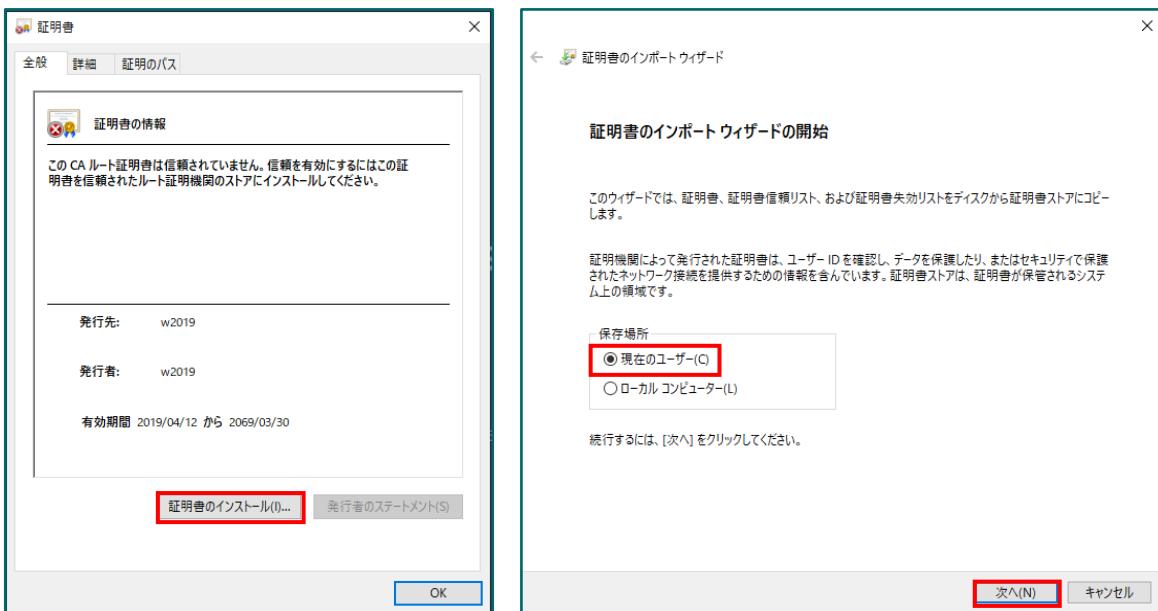
アドレスバーの証明書のエラーをクリックし、続いて証明書の表示をクリックして証明書を表示します。



(4) [証明書のインストール]

証明書を表示し、[証明書のインストール]をクリックし証明書のインポートウィザードを起動します。

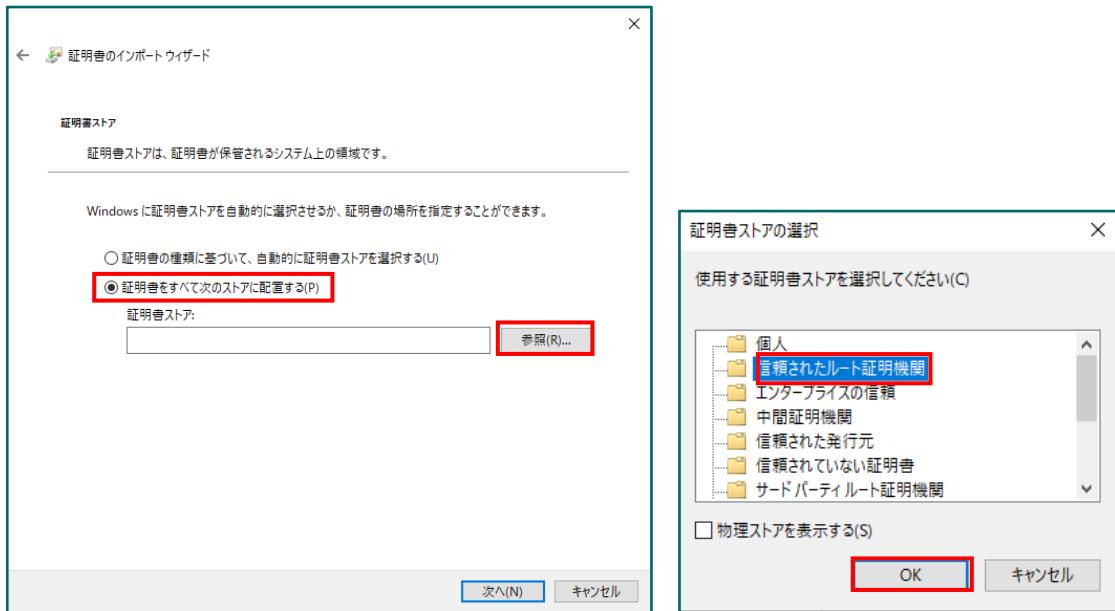
[現在のユーザー]を選択し、[次へ]をクリックします。



(5) [証明書ストア]

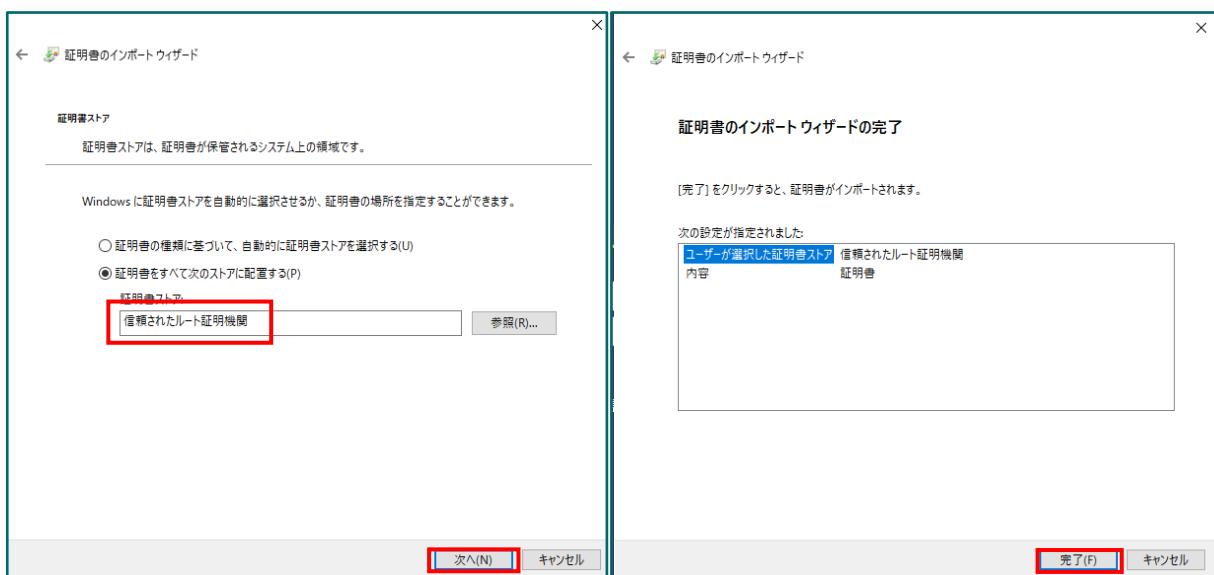
[証明書をすべて次のストアに配置する]を選択し参照をクリックします。

証明書ストアの選択画面で、[信頼されたルート証明機関]を選択し [OK] をクリックします。

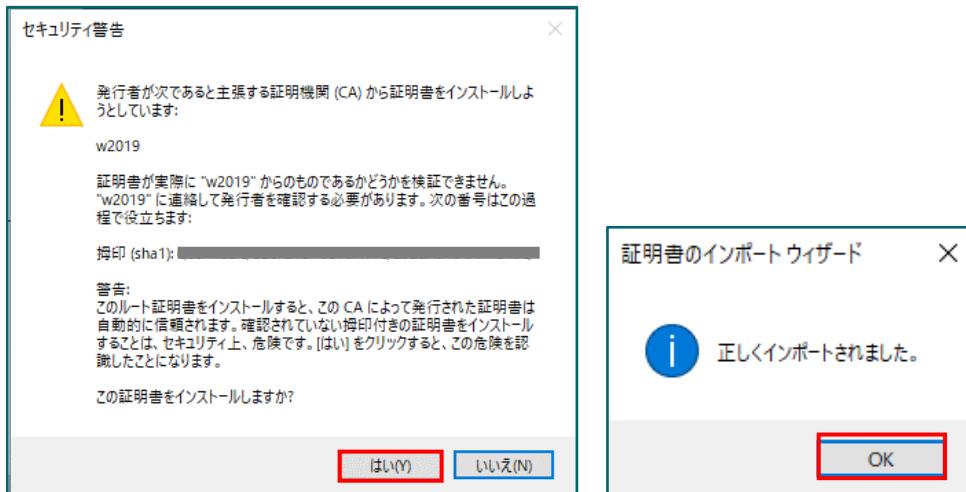


証明書ストアに、信頼されたルート証明機関が追加されたのを確認し、[次へ] をクリックします。

証明書がインポートされたことを確認し、[完了] を押します。



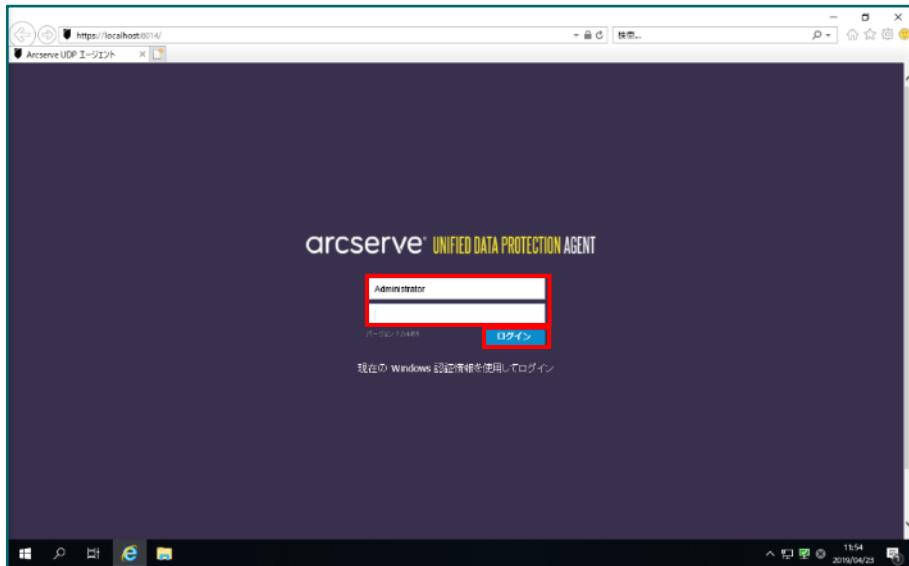
証明書をインストールする旨、セキュリティ警告画面が出てきますが、[はい] をクリックしインポートします。
正しくインポートされたのを確認したら、[OK] を押してブラウザを再起動します。



(6) [ログイン]

ブラウザを再起動し(1)の手順で再度 [Arcserve UDP エージェント開く] を選択し、UDP エージェントのログイン画面を開き、証明書エラーが解消されていることを確認します。

インストール時に指定したアカウントでログインします。ここでは、このまま「Administrator」アカウントでログインします。[パスワード] 入力し、[ログイン] をクリックします。

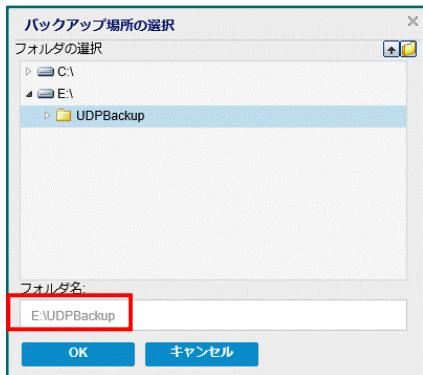


(7) [設定] - [バックアップ設定]

初回ログイン時、Arcserve UDP エージェントの使用方法の画面が表示されますが、[閉じる]をクリックし、画面右側のナビゲーション→タスク→[設定] 画面の [保護設定] をクリックします。UDP では必ず [バックアップ先] を指定する必要があるので、「バックアップ先」の [参照] ボタンをクリックして指定します。



バックアップ場所の選択を行い、[OK] をクリックします。この例では、「E:\UDPBackup」 というローカルディスク上のフォルダをバックアップ先として指定しています。

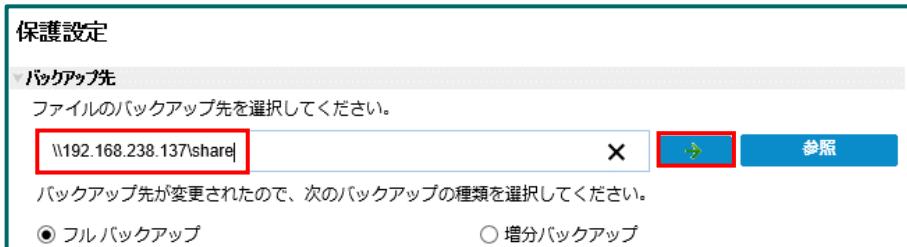


※ UDP ではローカルディスク内のフォルダをバックアップ先として指定した場合、バックアップ先フォルダを含むディスク全体がバックアップ対象から除外されます。ローカルディスク内にバックアップ先を確保できない場合には、外付け USB ハードディスク等を利用するか、以下の「バックアップ先として共有フォルダを設定する方法」を参照し、共有フォルダをバックアップ先として設定します



[バックアップ先として共有フォルダを指定する方法] :

- ① 共有フォルダを指定する際には、バックアップ先として“\”(¥)で始まる UNC パスを直接入力します。ここでは[\192.168.137\Share] という共有フォルダをバックアップ先として指定します



- ② UNC パスの入力後、テキストボックス横の→アイコンをクリックすると共有フォルダに接続するためのアカウント情報の入力画面が表示されます。接続に使用する [ユーザ名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックします。



(8) [設定の保存]

[設定の保存] をクリックし設定を保存します。保存が完了すると、自動的にデフォルトのバックアップスケジュールが設定され、バックアップ運用が開始されます。



(9) [スケジュール確認]

バックアップ スケジュールが登録され運用が開始されます。バックアップ中のステータスや次回のスケジュールは UDP ホーム ページ内の [ジョブ モニタ] から確認することができます。



サーバ: W2019

ジョブ モニタ

次にスケジュールされたバックアップ: 2019/04/12 22:00:00 増分バックアップ

サマリ

	前回のバックアップ - N/A N/A	
	復旧ポイント 31 個中 0 個のカスタム/手動復旧ポイント 7 個中 0 個の毎日の復旧ポイント	
	バックアップ先の容量 バックアップ先には 59.90 GB の空き容量があります。 パス: E:\UDPBackup\W2019	更新 更新のスケジュールは有効です。

※ デフォルトのスケジュール設定は、毎日 22:00 です。すぐにバックアップを開始する場合は、[今すぐバックアップ]をクリックしバックアップを実施します。

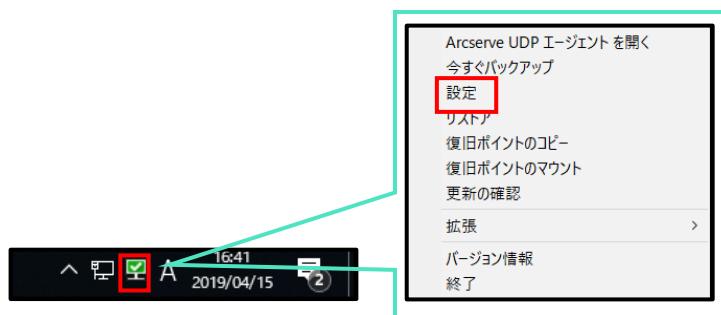
3. バックアップ スケジュールの設定例

3.1 バックアップ スケジュールの設定例

ここでは、月曜日から金曜日の 23 時に増分バックアップを行い、土曜日および日曜日にはバックアップを実施しない例を紹介します。

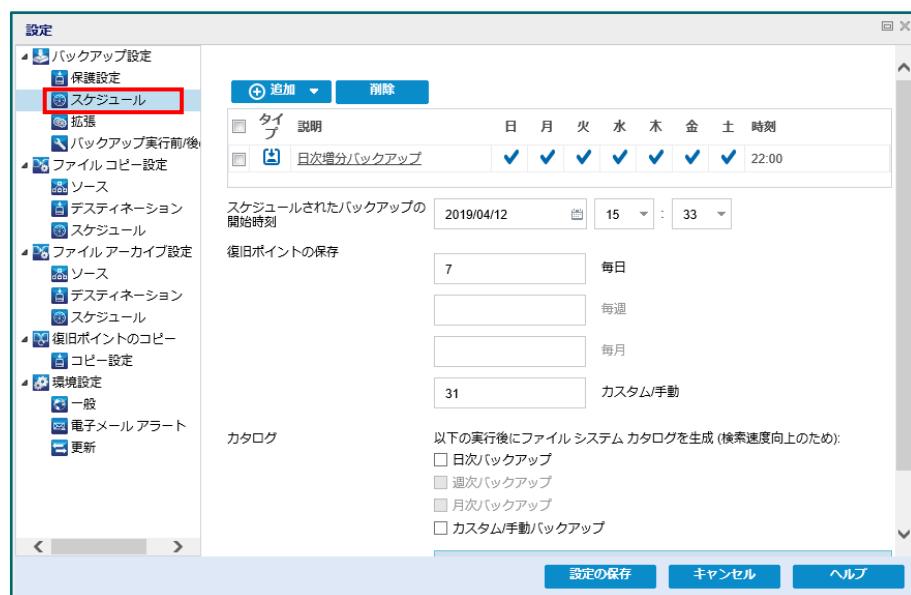
(1) [設定] 画面の起動

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、[設定] をクリックします。



(2) [設定]

バックアップ スケジュールの設定は、[設定] - [スケジュール] メニューでスケジュールを変更します。



(3) [日次増分バックアップ] の変更

[日次増分バックアップ] をクリックし、以下のように設定します。

開始時刻 : 23 時

曜日 : 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日

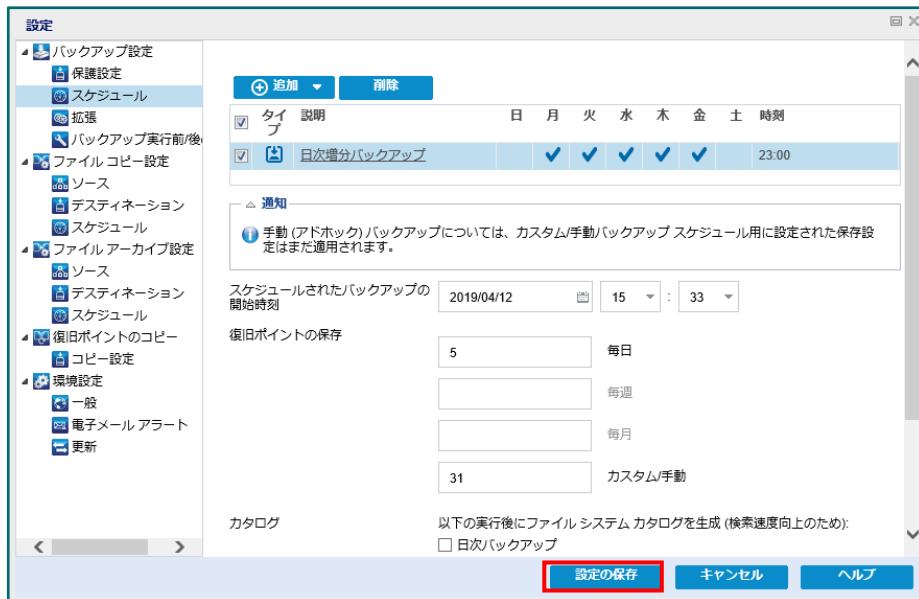
保持するバックアップ数 : 5



(4) [設定の保存]

月曜日から金曜日の 23 時にバックアップを実行する設定が完了しました。[設定の保存] をクリックします。

※ カスタム バックアップで保持する復旧ポイント数は、デフォルトでは「31」ですが、バックアップ要件にあわせて変更してください。



4. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカタログや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

4.1 製品情報および FAQ はこれら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<https://www.arcserve.com/jp/>

動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

注意 / 制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/2019042201?language=ja>

製品ドキュメント

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Documentation?language=ja>

サポート / FAQ

<https://support.arcserve.com/s/article/205002865?language=ja>

Arcserve Unified Data Protection 7.0 ダウンロード情報

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Solutions-Patches?language=ja>

(ブログ) それ、レプリケーションでよろしく。UDP ともども。

<https://arcserve.txt-nifty.com/blog/2020/04/post-eeb114.html>

4.2 トレーニング情報

無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でも参加いただけますので、この機会にご活用ください。

(注 : 競業他社の方はお断りしております。)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/>

